

歯科開業医の談話室

- 01 上顎無歯顎印象採得
- 02 下顎無歯顎印象採得
- 03 日本人用無歯顎既製トレー
- 04 総義歯の難症例
- 05 クラスプと間接維持装置の配置
- 06 直接維持装置の設計
- 07 間接維持装置の設計
- 08 鉤歯の歯冠形態改造
- 09 大連結子の設計
- 10 根尖まで根管充填する方法
- 11 感染根管のプレパレーション
- 12 歯内療法用器具の操作方法
- 13 歯内療法器具の根管破折防止
- 14 下顎孔伝達麻酔方法
- 15 歯科医師のための患者情報書類の書き方
- 16 半調節性咬合器の模型マウント方法
- 17 咬合理論

18 顎関節症

- 19 咬合病
- 20 変形性顎関節症
- 21 外側翼突筋の障害
- 22 円板後部組織の障害
- 23 中心位
- 24 中心位の採得方法
- 25 不正咬合
- 26 咬合分析
- 27 咬合調整
- 28 咬合調整のための診察・診断
- 29 咬合調整の方法
- 30 咬合調整の症例
- 31 咬合平面
- 32 咬合高径の理論
- 33 スマイルデザイン
- 34 アンテリアガイダンス
- 35 ロングセントリック
- 36 ブラキシズム
- 37 顎関節の雑音
- 38 オクルーザルプリント
- 39 理想咬合



この談話室の記事に関係する著書を紹介します。
いずれもシエン社およびアマゾンにて購入できます。

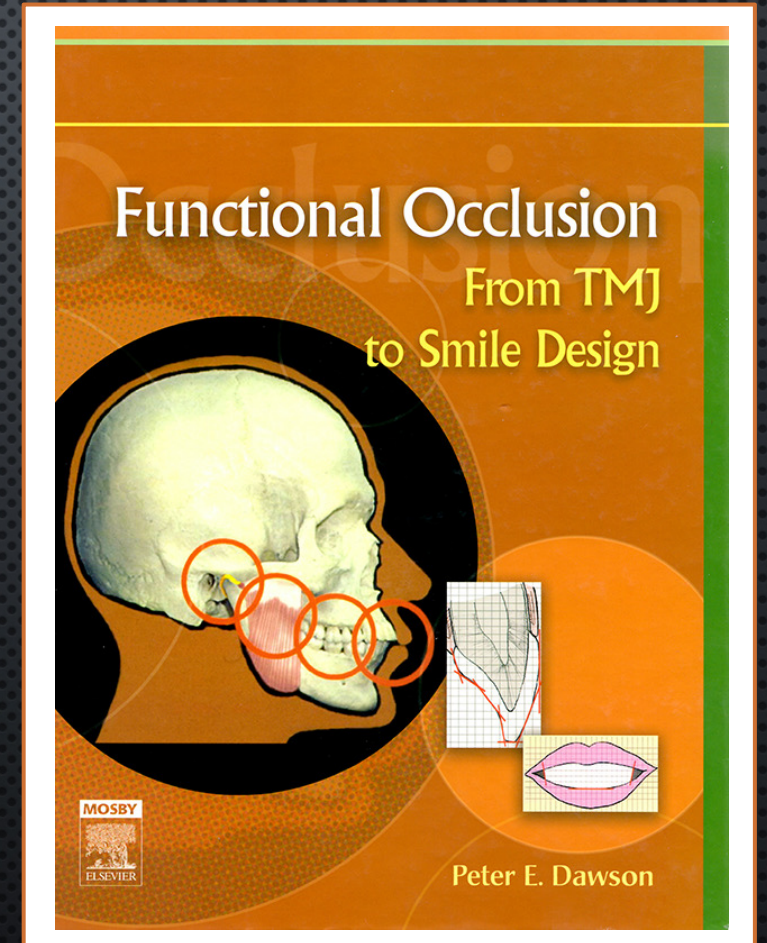


顎関節症

もくじ

1. 顎関節症とは
2. 顎関節症の名称と定義
3. 病名とは
4. 顎関節症と病名
5. 診断とは
6. 腰痛症と顎関節症
7. 顎関節症に含まれる病気
8. 心因性疾患
9. 心因性疾患の他診療科への診察依頼
10. 咬合病

引用文献



顎関節症

1. 顎関節症とは

顎関節症は、かつて、Costen syndrome あるいは TMJ syndrome などと呼ばれておりました。しかし、それらはいわゆる「顎関節症」と同一のものであります。その他に英語名と日本語名をあわせて20種類以上の名称を数えることができます。このように、いわゆる「顎関節症」は、その名称と定義において議論が絶えない状況にありました。

英語

Costen syndrome

Temporomandibular joint arthrosis

Myofascial pain dysfunction syndrome

TMJ syndrome

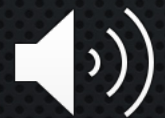
日本語

咀嚼系機能障害

顎機能不全症

顎機能異常

T M J 機能障害症



顎関節症

2. 顎関節症の名称と定義

1991年1月、カリフォルニアにて開催された頭蓋顎関節研究所のセミナーにおいて、いわゆる「顎関節症」に対する名称が Temporomandibular Disorders (TMD) に統一することが提言され、その定義は「TMDとは顎関節あるいは咀嚼筋、そして関連組織を含む臨床的問題の一群を包括した集合的用語である」とすることにパネラーの同意が得られました。

このセミナーの結果、顎関節症に関して多くの研究者が様々な名称と定義を主張し合うという不毛の議論が影を潜めることになりました。

また、この定義は、いわゆる「顎関節症」が特定の病気を指し示すいわゆる病名ではなく、顎関節周囲に様々な症状を示す複数の病気の集団名称であることを示すことになりました。



顎関節症

3. 病名とは

病名については、内科診断学が参考になります。内科診断学では、障害を受けている器官別に病名が掲載され、病名ごとに「定義」「頻度」「病態」「臨床症状」「身体診察」「検査所見」「診断・鑑別診断」「治療の基本方針」に関する解説がなされています。

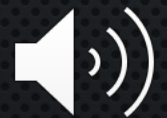
いわゆる「顎関節症」は、障害を受けている器官と病態が異なる複数の疾患が含まれていることから、病名とは言えません。



顎関節症

4. 顎関節症と病名

いわゆる「顎関節症」は、定義で示されているように、複数の病気の集団名称です。そのため、顎関節症は、個々の病気を示す病名とは異なり、障害を受けている器官はもちろんのこと病態や鑑別診断を示すことができません。いわゆる「顎関節症」は、病名が確定してない状態ですので「顎関節症と診断する」ということはあり得ません。すなわち、「顎関節症」は、原因や病態が不明で診断ができない場合に使用されます。たとえば「診断できないので、とりあえず顎関節症としておく」が適切な使用方法です。



顎関節症

5. 診断とは

医学事典によりますと、診断とは「対象を正しく理解すること。疾患名(病名)だけでなく、病人を取巻く環境、病気の背景、疾病の原因、経過や予後を左右する因子、検査や治療に関する事項など多種多様なものを含んでいる。…」とされており

ます。症例報告などにおいて「顎関節症と診断した」という言葉を耳にすることがあります。この診断の定義から考察すると、その「顎関節症と診断した」という文言は、間違いです。

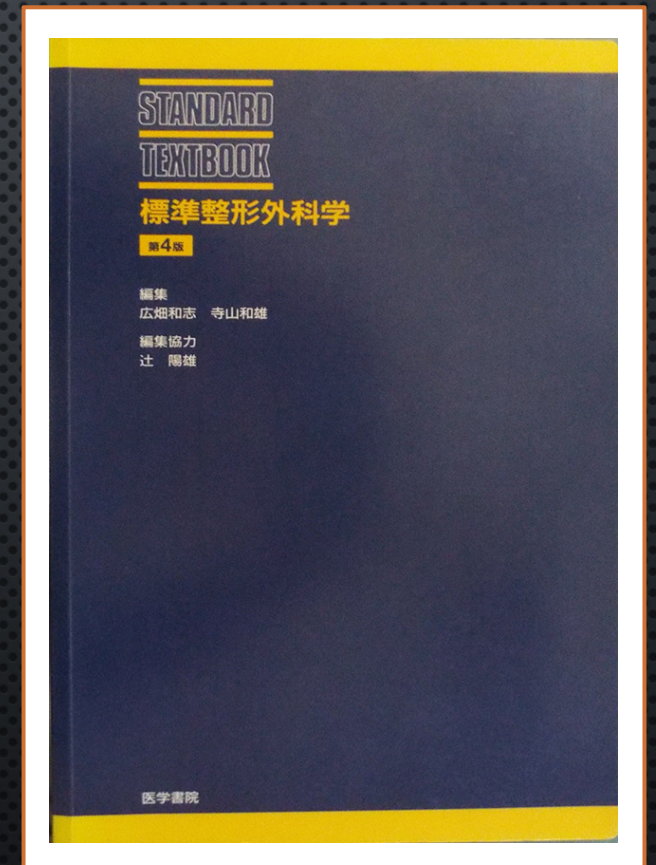


顎関節症

6. 腰痛症と顎関節症

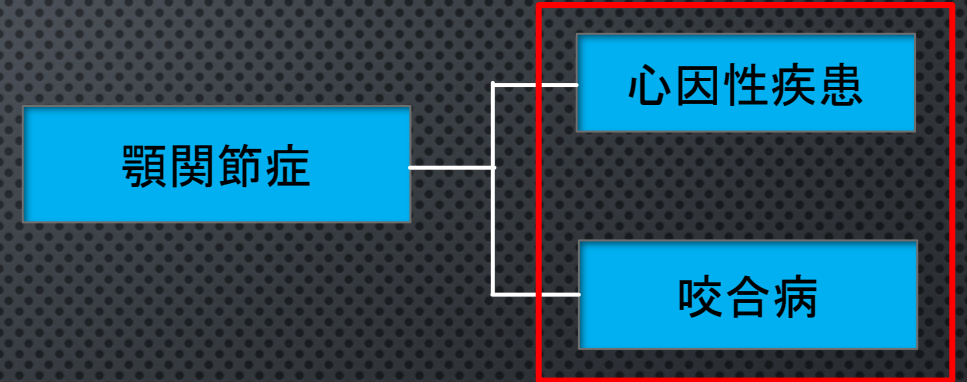
かつては、整形外科領域において、腰部に疼痛を訴えるすべての病気が「腰痛症」といわれておりました。しかし、現在は、検査技術の進歩により、病態が明らかにされた病気にそれぞれの病態に応じた適切な病名がつけられてきております。すなわち、診断が可能となった病気は、腰痛症から分離され、新たに病名が付けられてきております。

一方、顎関節症においても、最近の検査技術の進歩により、いくつかの病気において障害を受けている器官とその病態が明らかにされてきております。



顎関節症

7. 顎関節症に含まれる病気



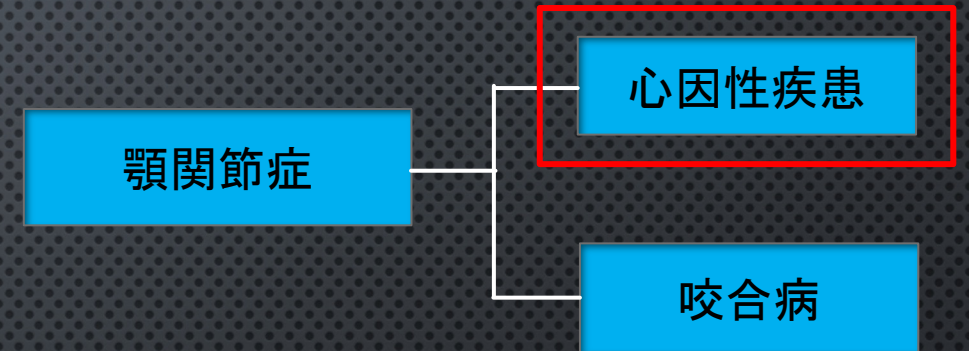
右上のチャート図は、顎関節症に含まれる病気を示しております。顎関節症に含まれる病気は、大きく分けて心因性疾患と咬合病に分けることができます。心因性疾患は、歯科医療機関ではなく精神科、心療内科、神経内科などが担当することになります。咬合病は、不正咬合から発症する病気の集団名称です。したがって、咬合病の診断と原因療法を行うことができるのは歯科医師のみです。

DawsonのFunctional Occlusionにおいて、咬合病から病態が明らかにされた病気として「変形性顎関節症」「外側翼突筋の障害(仮称)」「円板後部組織の障害(仮称)」が登場します。それらについては後ほど解説します。

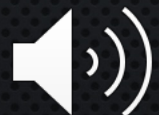


顎関節症

8. 心因性疾患

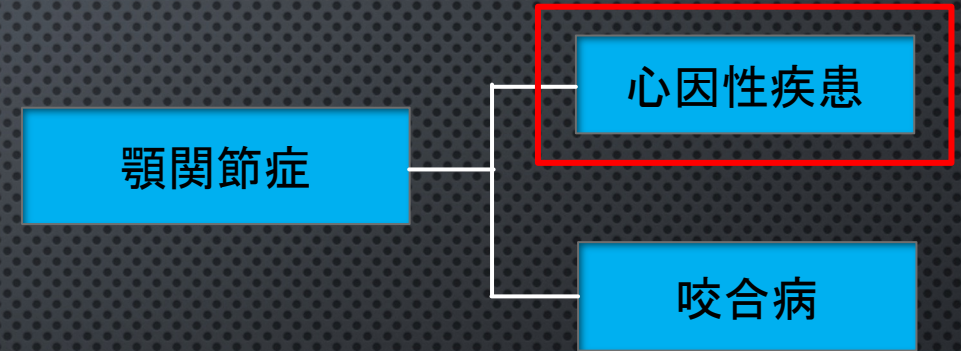


顎関節症に含まれる「心因性疾患」は、心理的・精神的原因により、顎関節部に様々な症状を引き起こす病気です。病気の原因が精神・心機構にある場合、その病気の治療は、歯科医療機関ではなく、精神科、心療内科、神経内科などが担当することになります。したがって、歯科医師が、単独でカウンセリングを行うなど、診察・治療に応じることは適切ではありません。その場合、精神科医、心療内科医、神経内科医に対して紹介状を発行し、担当医との連携医療にて治療の一部を担うこととなります。歯科医師が精神疾患に対して診断・治療を施すことは、医師法に違反します。



顎関節症

9. 心因性疾患の 他診療科への診察依頼

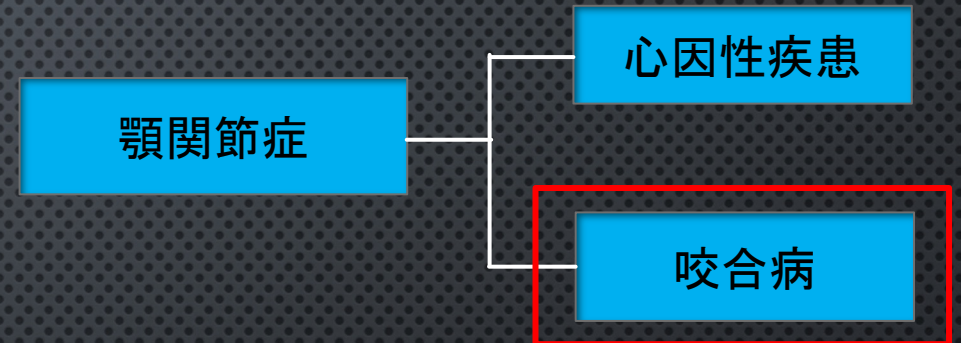


心因性疾患に関しては、歯科医師から他診療科へ診察を依頼することになります。その診察依頼書は、「患者情報」「依頼内容」「所見・理由」から構成されます。「依頼内容」は、症状を示して分かりやすく記載します。「所見・理由」は、「実施した検査の項目と結果」「これまで行った処置内容」などを記載します。とくに、咬合病では無いことを証明する歯科医学的根拠を医師に理解できるように示すことが大切です。



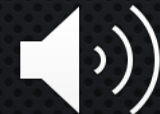
顎関節症

10. 咬合病



顎関節症に含まれるもう一方の病気として「咬合病」があります。咬合病は、顎関節症のうち不正咬合により引き起こされている疾患群が咬合病であるとされ、特定の病気を示す病名ではありません。

Guichet は、「咬合病とは、咬合不調和により促進される病的過程の総和である」と定義しております。補綴歯科学会は「咬合病とは、早期接触などの咬合の不調和に起因する顎口腔機能異常によりもたらされる種々の病態の総称である」と定義しております。



【歯科開業医の談話室 18】

顎関節症

参考文献

- 1)保母須弥也:咬合学事典、書林、東京、1979.
- 2)Peter E. Dawson : Functional Occlusion From TMJ to Smile Design, MOSBY, St. Louis, 2007.
- 3)外川正:入門顎関節症治療のための咬合分析と診断, 金原出版, 東京, 2009.
- 4)外川正, 武田泰典, 加藤貞文, 阿部 隆, 千葉健一, 水間謙三, 岡田 弘:いわゆる「顎関節症」から分離して扱うべき疾患—とくに隣接医科との整合性を考慮して—, 日本歯科評論, 624:171~180, 1994.
- 5)Niles F. Guichet : Occlusion, Anaheim, Calif. , 1977.
- 6)最新医学大辞典, 医歯薬出版, 東京, 1987.
- 7)福井次矢:内科診断学第2版、医学書院、東京、2008.
- 8)Okeson JP : Long-term treatment of disk-interference disorders of the TMJ with anterior repositioning occlusal splints. J Prosthet Dent 1988 ; 60 : 611-616.
- 9)Dawson PE : Bad advice from flawed research. AGD Impact April : 30-31, 1995.

今回のテーマを気に入っていただければ👍をクリックしてください。
質問あるいは疑問がある方は、下の公開コメント欄にお書き下さい。
よろしければチャンネル登録をお願いいたします。

次回の項目は、歯科開業医の談話室19番目「咬合病」です。

その他の著書

